

# 教育委員会だより

# いそぎく

発行日 平成23年7月1日  
 編集・発行 葉山町教育委員会教育総務課  
 〒240-0012 三浦郡葉山町堀内2050-9  
 TEL. 046(876)1111  
 FAX. 046(876)1861

## 第237号

### 小学校社会科副読本の改訂

#### 葉山町教育研究所

本年度より小学校3、4年生は新しく改訂した社会科副読本「はやま」を使用しています。

社会科の教科は小学校3年生から始まります。小学校社会科の学習指導の目標は「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」(学習指導要領)としています。小学校3、4年生では、地域に基づいて学習することになっていきます。したがって、教科書の他に、自分たちが暮らしている葉山町の産業、地理的環境、社会事象などを取り上げた副読本を作成してきました。社会科副読本の初版は昭和41年で、その後改訂を重ね現在に至っております。

今回の改訂では、資料を最新のものに改め、写真もなるべく現在のものを採用いたしました。また、「安全なくらしを守る」「健康なくらしをささえる」を章立てし、広範囲な分野を記述いたしました。

また、まえがきでは、「1、2年生で学習した生活科では、活動やたいけんを通して、みぢかな人びとと、社会や自然とのかかわりについて、考えてきました。3、4年生の社会科では、

葉山町の様子や葉山で働いている人たちのことを、もっと知って、ふるさと葉山を好きになってほしいと思います」と呼びかけました。小学生たちが、自分たちの住んでいる地域をよく知り、取材などをとおして地域とふれあってほしいとお願いいたします。

作成にあたっては、教育現場の先生方と協議を重ねました。また、関係機関や地域の方々にご協力をいただきました。今後、教育実践をとおして、一層よりよいものを目指してまいります。なお、この副読本は学校備え付けの備品扱いですが、葉山町教育研究所、ならびに町立図書館に置いてありますので、ご希望の方はご覧ください。また、7月8日〜10日に開催されます「葉山まちづくり展」(福祉文化会館大会議室)に過去の副読本とともに展示を予定しています。



葉山町教育委員会

▲新しく改訂した小学校3、4年生用社会科副読本



副読本の目次▶

## 自分も人も大切に作る学校



長柄小学校長  
南 森生

毎朝、上山口の自宅を車で出発し、南郷トンネルを通って学校へ向かいます。トンネルを抜けて左折し、しばらく行くと左手の山の上に、体育館の赤い三角屋根と校舎の白壁、そして煉瓦色の丸い塔が見えてきます。緑の中に赤・白・煉瓦色の彩りは、宮沢賢治が「イーハトーボ」と呼んだようなメルヘンが感じられ、これが長柄小学校の第一印象となっています。この童話的なイメージにふさわしい、明るく楽しい長柄小学校にしていきたいというのが着任にあたっての第一の抱負です。

さて、長柄小学校の学校教育目標は「自分も人も大切に作る子ども」という言葉に集約されています。本校開設以来三十数年継続されている目標です。それだけに、みんな覚えてはいるけれど、改めてこの目標について考えてみる機会が少なくなっているのではないのでしょうか。

私は、この目標を具現化する方法として次のように考えてみました。

『自分の  も、人の 』

も大切に作る子ども』

さあ、 の中にどんな言葉が入るか、考えてみてください。



▲6月4日 運動会「三色ゲキトツ! 騎馬戦」

例えば『自分の物も、人の物も大切に作る子ども』となると分かりやすいですね。他にも 意見 友だち 家族 時間 気持ち そして 命・・・いろいろな言葉が考えられます。そして、これなら具体的に実行できます。評価も反省もできます。教育は具体でなければなりません。

それから、もう一つ大切なこと。それは、これを子どもにだけ求めないことです。大人が、まず実践することです。子どもたちが、日々身近に接しお手本としている保護者や教職員を見習って「自分も人も大切に作る子ども」に育っていくことこそ教育目標達成へのあるべき道筋だと考えています。

みんなが、みんなを大切に作る、そんな長柄小学校をみんなで作っていきましょう。

(これは長柄小学校PTA広報誌「かいだん」に掲載された文章です。)

## 校長になって



葉山中学校長  
大久保 尚哉

この4月から葉山町立葉山中学校の校長に着任しました。大久保尚哉とい

います。

私は1978年に今の一色小学校のところに葉山中学校があったときに赴任いたしました。それから、新設の南郷中学校に移り十年間過ごしました。その後横浜国立大学附属鎌倉中学校そして葉山中学校に戻り、途中県の教育センターに一年間研修員とし葉山の地層や地質について勉強させていただきました。その間ずっと理科の教師として自然のすばらしさを生徒に伝えるよう指導にあたってきました。

その後、葉山中で教頭として過ごし、そして去年一年間南郷中学校に異動して、また葉山中学校に戻ってきました。その結果葉山中学校には合計十七年間お世話になっていくことになりました。その間に葉山の子を見ていて感じることは、本当に人なつっこく素直で心が純粹な子どもたちが多くことです。その純粋な気持ちを大切に中学学校生活の中で充実した学校生活を送ってもらいたいものです。

私は教育していく目標として最初に知性を磨いて個性を伸ばしてほしいで

す。学校での生活の中で様々な学習や活動を行います。その中で知識や知恵を蓄えていきます。その蓄えた物を実際の生活の中で役だたせ、活用している生徒になってほしいと考えています。

次に生徒達は人やまわりのものに対して感謝と思いやりを持って接して欲しいです。人は自分だけで生きていくのではなく、友達や学校の先生・保護者や地域の大人の人たちなど、まわりの人との関わりの中で成長していくものです。常に心に豊かさを持って、人に対して・ものに対して、また自分に対しても感謝の気持ちを忘れたい生徒になってほしいものです。

更に、生徒には最後までやり抜く強い心と強い意志を持って、困難なことにぶつかった時に徹底して継続して物事を行ってほしいと思います。そうすることで必ず成果が得られるということを知ることができます。困難なことを実現するために強い意志を持って取り組むことの大切さを教えていきたいと考えています。

最後にこの伝統のある葉山中学校を教職員、生徒、保護者、地域の方々みんなで協力し合ってよりよい葉山中学校にしていきたくて考えています。どうぞよろしくお願いたします。





地域との結びつきをさらに深めて



一色小学校教頭  
中根 正彦

一色小学校に来る前に、三年間教育委員会の生涯学習課というところにおりました。そこで「夜のパソコン教室」という講座を開いていました。仕事に役立てたくて、亡きご主人の残されたパソコンを使ってみたくて、撮影した写真を印刷したくて、様々な目的・動機で幅広い年代の方々が集まり、いつも定員いっぱい講座でした。

そして、最終日には、皆さん笑顔で「本当にありがとうございました。」と感謝の意を伝えて下さいました。その中に八十を超える女性が何名かおり、一人の方には、店の売上の計算が簡単にできそうだと喜んでいただき、もう一人の方には、パソコンに触れることが嬉しいと喜んでいただきました。

その溢れる笑顔に触れたとき、学ぶというのは、本来こんなにも喜ばしいことなのだと感じないわけにはいられませんでした。

生涯学習課では、次の様な方々とも出会うことができました。

現役を退いたあと、なお学習意欲を持ち、学び続けている方々。スポーツを楽しむ方々。絵画や音楽、花など文化的活動を楽しむ方々。野外活動や体

験活動を味わう子どもたち。古墳、庚申塔、仏像など文化財を大切に守っている方々。葉山を愛し、葉山の魅力を伝えようと頑張っている方々。

その一方で、学ぶことに喜びを見出すことができないでいる児童・生徒が少なからずいることも事実です。

今回再び学校現場に戻り、次の様な思いを強く抱く様になりました。

地域の方々の学びに対する情熱と意欲を子どもたちには是非伝えたい、見てもらいたい。また、町には様々な知識や技術を持っている方々がたくさんおり、それは町の宝ともいべきものです。その方々に是非子どもたちの先生になっていただきたい。

一色小には、毎年学校のために田を提供して下さいます。六年生は歴史の学習で、古墳を守る会の方々に教えを請いました。五年生は「葉山メダカの会」の方に育て方を教わることになっていきます。そんな地域との結びつきを大切に、そのつながりをさらに広げ深めていきたいと考えています。

なぜなら、地域の方々の様々な目が学校の子どもたちに注がれることが、地域社会全体で子どもを見守ることにつながり、最終的に子どもたちの健全な成長につながると考えているからです。

若々しく熱心な先生方に囲まれ、その刺激を受けながら、そんな一色小学校区になるためにひと役かうことができればと、今、考えています。

今、雑感



南郷中学校教頭  
松浦 匠

皆様こんにちは。南郷中学校の松浦です。前教頭の大久保先生が葉山中の校長先生になられた関係で、その後を引き継ぐ形となりました。

今までとは全く異なる仕事内容ばかりで、もうすぐ六月になろうとしていて、今でも、なかなか仕事に慣れません。

昨年度は久しぶり、というか教員生活で二回目の学級担任を外れて副担任という立場で、学年全体のサポートとしてまいりましたが、自分の学級が無かったという一抹の寂しさをいつも感じておりました。ただ今では一抹どころではありません。学級が無いどころか授業すらできないことが、自分の存在を自分で疑ってしまいます。

昨年までは学級担任が無くても様々な場面で生徒達と関わることができましたが、今の立場で今までと同じように、というのがなかなか難しいと実感しています。

私は学級・授業・行事・部活等々、いろいろな場面で我々教員と生徒が関わることによって、授業だけではなく、日常の指導が円滑に行えるように、お互いを理解しあえたり、お互いが学習しあえたりと、正常な学校生活が成り立っていかと思っています。立場が変わってもそ

れだけは忘れずに、今自分に与えられている仕事をしっかりとやっていきたいと思っています。

南郷中では先日体育祭が終わりました。その体育祭で特筆できるのは、どの学校でもそうなのですが、三年生が実際に行事なりリーダーシップを発揮してくれて、体育祭を大成功に導いてくれた事です。三年生の体育祭というと、「勝ちたい！」という気持ちが当然あるわけですが、その気持ちを前面に出しながらも、運動の苦手な下級生にも丁寧にかつ、優しく指導していた場面が実に印象的でした。そして忘れてはいけないのが、その三年生達を直接指導にあたった、三年生の先生方です。南郷中の体育祭は初めてという先生が学年の中にもお二人いました。が、学年内で情報交換を密に取り合いたながらのチームワークが功を奏したんだなと感じています。


反面、登下校時には地域の方々にご迷惑をおかけしている部分もあります。家庭・学校・地域が一体となって健全な南郷中生を育成できればと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひ致します。



▲5月21日 体育祭  
「大玉送り」

# 子ども読書アンケート結果報告

## 読書で広がる子ども世界



最近、子ども達の読書離れが問題になっていますが、葉山町の子ども達はどうでしょうか。

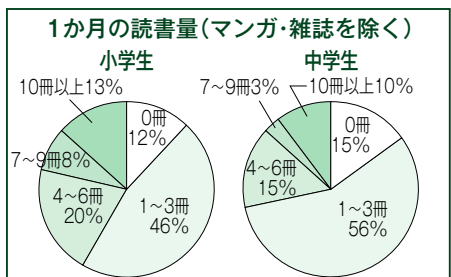
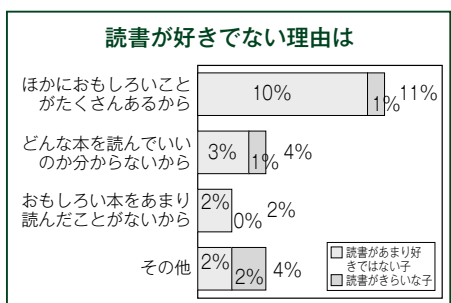
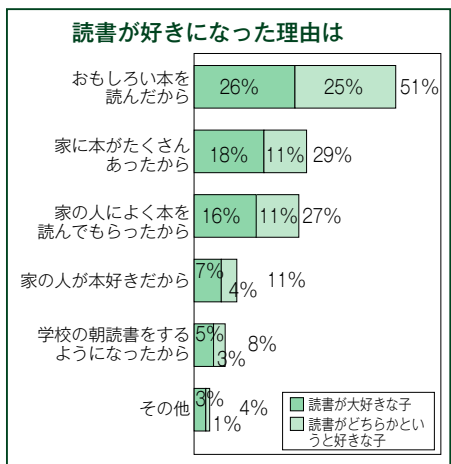
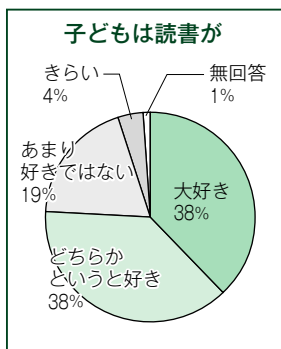
昨年夏に、町立小学校四年生から中学校三年生までの全児童・生徒一、六一人とその保護者に「子ども読書アンケート」を実施しました（回収率二四・七割）。

### 読書が好きな子どもは七七割

読書が大好きな子どもは三八割、どちらかというところ好き子どもは三九割、八割近い子ども達は読書が好きです。

### おもしろい本との出会いで読書好きに

前出の読書が「大好き」「どちらかというところ好き」な子ども達が読書が好きになった理由として挙げたのは、最も多



四三割、「ちょっとものしりになった」三六割と、子どもたちは、自分の世界が読書によって広がったと感じています。でも、一か月の読書量は…

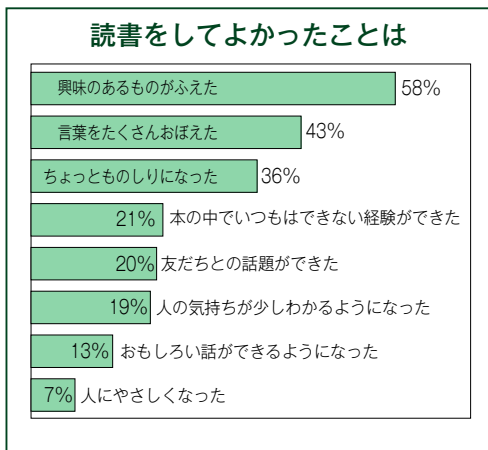
葉山には読書が好きな子どもが多いから、さぞや本を読んでいるのだろうと思いきや、マンガや雑誌以外の本はあまり読まれていないようです。

葉山町では、小学生の七九割が六冊以下、〇冊の小学生は十二割です。中学生は七二割が三冊以下、〇冊は十五割です。

### ほとんどの保護者が「読み聞かせ」した

家庭ではどのように、子どもの読書習慣を形成しているのでしょうか。

子どもに本を「よく読んであげていた。」保護者が五五割と過半数を超え、「ときどき読んであげていた」と合わせる、八七割の保護者が子どもに日常的に読み聞かせをしていました。



寝る前の読み聞かせ時間は、親子のコミュニケーションの時間として重視していた様子もうかがえました。

### 「読書活動推進計画(仮称)」策定へ

読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

町では、今回のアンケート結果をさらに分析し、家庭の読書環境や地域での子どもへの読み聞かせ活動、学校での朝読書活動の状況等を踏まえて、今年度中に「読書活動推進計画(仮称)」を策定する予定です。

この計画では、子どもの読書の機会の提供、関係機関や民間団体等が連携協力した取組みの推進、社会的気運醸成のための普及・啓発等の取組みが計画されます。